

こころ21だより

NPO法人 心豊かな家庭環境をつくる広島21

発行責任者／理事長 岸房康行

会報 第54号

2024年(令和6年)8月5日発行

事務局 〒730-0856

広島市中区河原町7-2 徒然社内

TEL 082-292-4507(金 子)

FAX 082-292-4508

E-mail: kokoro21@tsure20.co.jp

こころ21

検索



第18回通常総会

6月19日(水) 中国料理店「桂林」で開催。
総会は事務局からの提案の議案がすべて承認されました。

総会後の懇親会には 17 人が参加。3 グループに分かれて懇親を深め、1 年ぶりの集いを楽しみました。

総会の後に、大学で「企業の社会的責任(CSR)」の講義を担当する当法人の世良会

員が、「イマドキの若者(Z 世代)の社会貢献意識とは？」と題して講演しました。

(今回同封の資料をご覧ください)

講演は、当会の目的である「心豊かな家庭環境づくり」に若い世代も参画してもらうには？との問題意識のもと、21 世紀の主役である若者の生き方や社会課題への意識等、リアルな姿を知ろうとするものでした。

岸房理事長あいさつ

日本の少子化はとどまることを知らず、
どんどん子どもの数が減っておりまして
先月総務省は今年の4月1日現在で15歳未満の子ども数は1401万人で43年連続で減少したと発表しました。また、厚生労働省はこの6月5日、2023年の合計特殊出生率は1.20で過去最低を更新し、出生数も過去最少の72万7,277人になったと発表しました。

一方で子どもを巡る現状は多くの問題を抱えていて、小中学生の不登校の数は2022年は29万9千人で10年連続で最多を更新しています。いじめの認知件数も10.8%増え68万2千件に上っています。小中学生の自殺者数は2022年は514人で過去最多となり2023年も513人と高止まりしています。子どもの数が

どんどん減っているにも関わらず最多を更新しているわけですから子どもたちが
いかに心を悩ませているかわかりただけかと思います。

一方で、小学生のころに川遊び、美術館見学、音楽鑑賞、スポーツ観戦といった体験や読書、お手伝いなど多様な体験の積み重ねが、子どもの健やかな成長を促すとする研究結果を令和3年に公表しています。

以前の文科省の調査でも自然体験、生活体験の豊かな子どもほど道徳観・正義感が身に付いているとの研究結果を公表しています。こころ21も音楽プロジェクトやカレーづくり大会などさまざまな体験活動を展開してきましたが改めてしっかりと頑張っていかなければとの思いを強くしているところです。

総会講演 事務局・広島修道大学 商学部 准教授 世良 和美

学生 221 人にアンケートを実施した結果をもとに、学生から環境問題・社会課題への高い関心や貢献意欲（7～8 割）が示された一方で、日ごろ社会貢献活動を行っているのは 1 割強。大半は NPO に関する具体的な知識や情報を知らないという回答し、意識と行動のギャップが浮き彫りになりました。

この意識と行動を繋ぐには、若者から寄せられた「参加へのアイデア」を参考にしつつ、今後も世代を超えてともに学びあうチャンネル作りが求められるでしょう。

総会参加者の皆さまからは、熱いコメントをお寄せいただきました。また、後日大学で総会での様子を報告したところ、「自分たちの回答で NPO の会員の方々が若者に思いを寄せてくださった」

と喜ぶ学生の姿がありました。

首都圏でも NPO の世代交代・事業承継の議論は緒に就いたばかりとのこと。当会も、次世代へバトンを渡していくのか、それとも新しい芽吹きをの土壌を提供して新しい世代に譲るのか… 今後も会員間でぜひ活発に意見交換をしてみよう。



「Z世代」とは

現在10代後半～30代手前の若者を指すマーケティング用語で、SNS ネイティブ、強い仲間志向などの特徴を持ち、社会貢献意識も高いとされている。

こども夢コンサート開催

子どもたちが生の音楽演奏を身近に触れる機会を作ることを目的に、エリザベト音楽大学の協力を得て、令和6年2月29日にエリザベト音楽大学セシリアホールで実施しました。

演目は子どものためのミニオペラ「ふしぎな島の物語」、台本は昨年に続き藤原愛さん・糸賀里咲子さん。学生たちの演技に子どもたちも大喜びの1時間でした。今回は流川こども園、広島女学院ゲーンズ幼稚園の園児約100人が参加。また、開催にあたっては公益財団法人エネルギー文化・スポーツ財団から10万円の助成金をいただきました。

なお、今年度から参加対象園を同じ園だけではなく、幅を広げ、開催会場もかつてのように園を訪ねて実施をしたいと考えています。



マツダミュージアム見学会

実施報告

今年度の研修会、以前は広島市外への小旅行を行ってきましたが、今回はあらためて地元を眼を転じる企画とし、令和6年3月19日（火）にマツダ株式会社（以下、マツダ）の展示施設「マツダミュージアム」見学と、広島湾を臨むプリンスホテルでのランチ会食を実施することとしました。

参加の16人は広島県庁北に集合し、マイクロバスで仁保沖町のマツダ東正門へ。車内では、昨年までマツダ社員だった世良が、同社の創業秘話や館内の見どころなどを事前にミニレクチャーをさせていただきました。ミュージアムでは明るい笑顔のスタッフさんが出迎えてくれました。

ロビーから入場すると、まずは動画「Mazda Heritage ～広島に育まれた、今に続くマツダの挑戦の歴史～」を大スクリーンで視聴。マツダの誕生から現在に至る飽くなき挑戦のストーリーが、焦土と化した広島復興の歴史と重なり、同社と広島と、そしてこの地で生きる我々との絆を感じさせてくれました。

続いて2階展示室へ。そこではミュージアム副館長の下野弘一氏が「ぜひご案内を」と急遽アテンドに加わってくださり、さらに充実した見学となりました。

展示室へ向かう「タイムトンネル」と呼ばれる渡り廊下の先には、1920年創業時の史料や、懐かしの三輪トラックの実車が展示されていました。さらに先へ進むと、マツダ初の乗用車「R360クーペ」や、当時の憧れのスポーツカー「コスモスポーツ」などがズラリ。一行は、かつて乗っていた車の前で思い出話に花を咲かせたり、記念撮影を楽しまれていました。

続いて、技術展示のコーナーでは、技術開発における考え方からマツダならではの創意工夫まで分かりやすくご説明いただきました。

また、見学ルート内に実際の自動車生産ラインが組み込まれているのですが、これはマツダミュージアム見学の醍醐味。多種多様な車が整然



と組み立てられていました。そして、すぐ目の前の積み出し港に接岸された自動車運搬船を眺め、クルマ作りから積み出しまでをリアルに体感できました。

最後のゾーンは未来展示。マツダのデザイン美学を物語るアート作品や伝統工芸品、そして次の100年を見据えた未来技術などを通じて、同社の“クルマは単なる鉄の塊ではなく命あるもの。共に走り、共に遊び、共に生きていくパートナーでありたい”という思いが見学者にも伝わってくるようでした。

（世良 和美）



マツダミュージアム
公式サイト



2024年度 事業開催予定

フォーラム

若者と「食」のあり方を語る!!

生きることは「食う」ことなり

◆開催日：2024年11月16日（土） 午前10時より

◆場 所：合人社 ひと・まちプラザ
広島市中区袋町 6-36

社会経済情勢が目まぐるしく変化し、「食」を取り巻く情勢も大きく変化しています。

これからの時代を担う若者と「食」のあり方について議論し掘り下げていこうとするフォーラムです。

カレーづくり大会

◆開催日：2024年9月22日（日） 午前10時集合

◆場 所：大芝小学校グラウンド
広島市西区大芝一丁目 25-18

◆主 催：大芝学区子ども会育成協議会

こども夢コンサート

秋に向けて開催する方向で、エリザベト音学大学と交渉を進めています。

岸房理事長



ドラゴンフライズは日本一になりました。クラブ創設 10 年目、B1 昇格 4 年目の快挙です。私もドラゴンフライズに関わって 10 年目ですが、皆さまには物心両面にわたって支えていただき、

本当にありがとうございます。監督は変わりますがほとんどの選手が残留してくれますので、来シーズンも強いと思います。引き続き応援をよろしくお願いします。 「総会あいさつより」

令和6年度

主要事業の役割分担表

主要事業の名称	担当理事（○印は総括者）	備 考
①総会	○岸房、事務局全員	令和7年6月
②理事会・役員懇談会	○岸房、金子	
③フォーラム・学習会	○事務局全員	
④カレーづくり大会	○金子、横山、岸房	普及啓発活動ほか
⑤会報の発行	○野坂、金子、横山	年3回発行予定（制作担当：福谷会員）
⑥子どものための音楽プロジェクト	○野坂、窪田、白川	（協力：木時会員）
⑦会員研修・日帰りバスツアー	○岸房	
⑧ホームページ管理	○金子	（編集担当：福谷会員）
⑨主要な通常業務 イ）会計管理・ロッカー管理 ロ）会員名簿管理 ハ）事務局議事進行・議事録作成 ニ）官庁諸手続	窪田 金子、窪田 金子、横山 金子、横山	事務局会議（月2回開催予定） 総会後の事業報告等

総括責任者

- ・理事長 岸房康行
- ・事務局長 金子敏郎

事務局

金子 敏郎
岸房 康行
窪田 晴美
白川 裕子
世良 和美
野坂 忠守
横山 英治

※50音順

事務局員募集
いっしょに企画・実施しませんか？

編集後記

いつも会報をご覧ください感謝いたします。

さて、この会報の編集は、事務局の野坂と金子があたっています。

今回の会報が 54 号ですが、そのほとんどの 50 号分を 2 人で担当していました。

2 人で記事の内容の企画から割り付けを検討しますが、大変さもありますが楽しく進めています。野坂は共同通信社の記者ハンドブックを片手に、全部の記事の誤字や表現方法をていねいに校閲しています。

この編集後記につきましては、いつの時からか金子が書かせていただいています。

編集後記として、適切なものかどうかわかりませんが、毎号思いつくまいろいろ話題について掲載させていただいています。

事務局にも新たな仲間が参加しています。おかげで、平均年齢も大きく低下しました。

今後は新しい視座での事業活動、会報記事も登場するかと思いますのでご期待ください。

（金子敏郎）